

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	ながおか医療生活協同組合	代表者	羽賀 正人	法人・事業所の特徴	市内で診療所、こどもクリニック、歯科クリニック等の医療サービスや様々な介護保険事業を運営している法人が2010年4月に開設。地域交流スペース「わいが家」を併設し、地域住民との交流の場になっている。診療所、居宅介護支援事業所をはじめとした複数の同法人事業所が近隣にあり連携に努めている。ご利用者ひとりひとりの笑顔を引き出す事を目指し柔軟性ある個別ケアに取り組んでおり、近年は感染症予防対策を行いながら近隣のこども園との交流も行っている。
事業所名	プラット新町	管理者	田井 久美子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	2人	1人	1人	1人	3人	3人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの影響を見つ、積極的な研修参加また、オンライン研修が主流となっている中の為、オンライン研修を実施できる施設の設定を行う。 ●施設内学習会の強化を行う。 ●継続して担当職員紹介シートの作成を検討し、ご利用者・家族から相談しやすい関係づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●可能な限り研修会への参加、オンライン研修への参加を行う事ができた。又、全ての研修ではないが、受けた研修を他職員へ伝達講習を行い学びの機会を増やすことができた。 ●学習会の年間スケジュールを決めて毎月、学習会を実施することができた。 ●春先の広報誌に職員紹介を掲載したが、職員紹介シートまでは作成できなかった。広報担当と相談し作成できる方向へ持っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの終息が未だ見えない状況だが、今後も無理のない範囲で研修に参加できると良い。 ●学習会の年間スケジュールがあると管理もしやすく、学習会の強化にも繋がるので良いと思う。 ●職員の異動や退職もあり、職員シートの作成や更新は大変かもしれないが、紹介シートがあることにより、職員の把握や自宅内でのコミュニケーションのきっかけにも繋がると思うのであった方が良く思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●積極的な研修への参加の呼びかけと、参加ができなかった職員への伝達講習の実施を行い学びの機会を増やす。 ●全職員が参加できるように部会にて事業所自己評価についての学習会を実施する。 ●担当職員紹介シートの作成担当者を決め、シートの作成を行い、ご利用者、ご家族から相談しやすい関係づくりを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ●手作りの施設看板の作成を行い、施設の場所を分かりやすくする。(環境整備の継続) ●継続して、わいが家への壁面飾り掲示を行いわいが家ご利用者へ興味を持ってもらえる取組を行う。 ●玄関前の環境整備の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設の場所を分かりやすくする目印として、利用者と職員の共同制作で施設の看板を作成した。 ●わいが家を利用された方にプラット新町への興味を持って頂けるよう、今年もわいが家に壁面の掲示を行った。 ●玄関前にはプランターに季節の花を植えたものを飾って事業所に入りやすいように心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●看板が設置されて場所が分かりやすくなった。看板に季節の飾りつけもされており季節感も感じられるので設置してよかったと思う。 ●地域交流スペースに利用者が作成した壁画を掲示してどのような活動を行っているかを知ってもらえるいい機会だと思う。壁画だけではなく活動写真等の掲示があるとより知ってもらえることができると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●玄関前の看板に季節に応じた飾りつけを行ったり、プランターに植えた花を飾る等の環境整備を行い施設に入りやすい環境を作っていく。 ●継続して地域交流スペースにご利用者が作成した壁画、活動写真を掲示し、事業所の様子を知って頂けるよう取り組んでいく。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナウイルスの影響を見ながら継続して、こども園との交流を実施していく。 ●オンライン(ZOOM)等を活用した交流を行っていく。 ●直接的な交流が難しくなると思われるため、広報活動に力を入れていく。(施設の紹介を回覧板等へ掲載) 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍にて大々的な交流は行えなかったが、作成したクリスマスプレゼントをこども園にお持ちさせて頂くことはできた。卒園に向けての記念品も予定している。 ●オンライン(ZOOM)等を活用した交流は行う事ができなかった。こども園の先生と相談しながらオンラインでの交流が行えるよう取り組んで行きたい。 ●町内会長に回覧板に広報誌を入れさせて頂く事をお願いし、了承を得ることができた。施設のことを少しでも地域の方に知って頂けると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍にて直接的な交流は難しいと思うが、今後もできる範囲で交流を行って行って欲しい。 ●新型コロナウイルス対応が今後どのようなようになって行くかは分からないが、直接的な関わりが難しいようであればオンラインを活用した交流が持てると良いと思う。 ●地域との直接的な関わりが積極的に取りづらい状況下ではあると思う。広報活動に力を入れて施設を知ってもらおう働きかけを行う事は地域や施設側にとってもとても良いことだと思うので継続して取り組んで欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●感染予防対策を行いながらこども園との交流を実施していく。 ●対面交流が難しい場合も考え、こども園の先生と相談しながらオンライン交流も行える体制を整えていく。 ●年4回の施設広報誌を回覧板に入れさせて頂き、少しでも地域の方に事業所を知って頂く取り組みを行っていく。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して、個別ケア強化月間を設け、ご利用者・ご家族との関係構築に努める。また、職員のスキルアップに繋げていく。 ●わいが家を利用し、介護相談会や地域の方のお話しを聞く機会を設ける。 ●地域の相談窓口を認識して頂けるようなポスターを作成し、地域に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●個別ケア強化月間を設けることはできなかったが、職員の気づきにより個別ケアの実施はできていた。(看板作りや施設周辺の散歩等) ●コロナ禍でもあり、介護相談会、懇親会の開催はできていない。 ●ポスターを作成して地域への発信を行うことはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も個別ケアの強化を行いご利用者・ご家族との関係構築に努めて欲しい。 ●新型コロナウイルスの感染状況を見ながらにはなるが、介護相談会、懇親会を開催できると良いと思う。 ●ポスターの作成も良いと思うが、相談窓口であることを広報誌に載せて発信した方が多くの人に覚えてもらえるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年を通して、ご利用者と担当職員が行ってみたい所、やってみたいことを実現させる取り組みを行いご利用者・ご家族との関係構築にも努めていく。 ●感染予防対策を行いながら、わいが家にて介護相談会・懇親会を開催できる取り組みを行う。 ●より多くの地域住民の方に相談窓口を知って頂く為に広報誌にて発信を行っていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議開催月に合わせて、その月の部署会議内で進捗状況・構成員の皆さんから出た意見・疑問点など現場スタッフに報告する機会を設け、意識付けを行っていく。 ●継続して、地域包括支援センターとの連携を行う。(地域ならではの事例を聞き、現場スタッフに周知・学習会のような形で地域密着型施設の役割、意識付けを行う) 	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍にて会議が書面での開催となったが、運営推進会議のレジュメ、議事録を全職員で回覧し、部署会議の中で構成員の皆さんから出た意見や疑問点を報告する機会を設けて意識付けを行う事ができた。 ●コロナ禍にて地域包括支援センターとの連携を行うことはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●書面開催だとなかなか意見交換を行うことは難しい。しかし、活動写真や活動の報告でどのような課題があるか、活動の様子は概ね把握できている。 ●コロナ禍ではあるが、感染対策をしっかりとった上で、地域包括支援センターとの連携を行って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年間予定表の作成を行い、現場職員が運営推進会議に参加できるようにする。書面開催な場合は、引き続き部会にて現場スタッフに報告する機会を設けて意識付けを行っていく。 ●対面にて会議が実施できない場合は、事前に地域包括支援センターに地域における困難事例等をお聞きし、連携を図っていく。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●老健あらまちとの合同訓練の継続に併せ、その他近隣施設とも連携を図り、より現実的な訓練を実施していく。 ●各想定によって(地震・火災・水害)現場スタッフにどのような事が起きるのか、シュミレーションしてもらい、意見を収集。それを元に訓練想定を行う。 ●災害時のサポートや一時的な受け入れ可能の文書を作成、地域に発信し施設を認識してもらう取り組みを行う(前回の改善計画の継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ●老健あらまちと協力をしながら避難訓練を行うことができた。その他の近隣施設とは連携した訓練は行えなかった。 ●現場職員と各災害のシュミレーションを行いどのようなことが起きるかを想定しながら避難訓練を行うことができた。 ●災害時のサポートや一時的な受け入れ可能の文章を作成して地域に発信することはできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●老健あらまちと協力をしながら防災・災害訓練が実施できて良かったと思う。他近隣施設とも連携を図って訓練が実現できれば良いと思うが、近隣施設との連携が増えれば増えるほど逆に混乱はないのか？ ●各災害のシュミレーションを行いながら災害時の対応に備えることは大切だと思う今後も継続して実施して欲しい。 ●高齢化と単独世帯が進んでいる為、いざという時にサポートを受けれたり、一時的な受け入れができることをより多くの地域住民が知ることができると安心して生活を送ることができると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続して老健あらまちとの合同避難訓練を実施し、安全且つ速やかに避難が行えるように取り組んでいく。 ●各災害(地震・火災・水害)のシュミレーションを行いながら訓練を実施し災害時の対応に備える。 ●災害時のサポートや一時的な受け入れ可能文章を作成し、回覧板にて発信し施設を認識してもらう取り組みを行う。
----------------------------	--	--	--	--